

五木の子守唄（松口月城）

五木の民謡 子守唄

可憐の詞句 如何か聴く

児を揺すつて 調し去る 平生の思い

声調 斯の時 文よりも 鋭し

五木民謡子守唄 可憐詞句聴如何
揺兒諷去平生思 聲調斯時鋭似鋒

解説 五木村に古くから伝わる民謡の子守唄を詠った詩。

語釈 ※五木 熊本県球磨郡にあり、九州山地の尾根部に位置している。※民謡 民間のはやりうた。※可憐 愛らしい。感に堪えない。※詞句 詩の中の言葉。歌詞。※諷去 諷んじて唄うこと。暗唱。

通釈 五木村に古くから伝わる民謡の子守唄がある。感に堪えないその歌詞はどのように聴いたらよいであろうか。背中の子をあやしなから唄ってきた唄には、わが家へのつきぬ想いが込められている。ほ独戸の調子は高く、聴くものにとつては、鈍で突かれるよりも鋭い哀れさを感じさせるものがある

歌一 おどま盆ぎり盆ぎり

盆から先やおらんど

盆が早よ来りや早よもどる

歌二 おどま勸進勸進

あん人達やよか衆

よかしゃよか帯よか着物